

## 「拒否の現実(2)—2つのイスラエル—」

### 1. はじめに

#### (1) ロマ書9~11章の扱いについて

- ①省略する(置換神学の立場。教会は新しいイスラエルであると考える)。
- ②軽視する(これは挿入句的なものである)。
- ③神が3章も使って啓示しておられる内容が軽いものであるはずがない。

#### (3) ロマ書全9~11章で、パウロはイスラエルに関する神の義の弁護をしている。

### 2. 文脈の確認

#### (1) 前回の内容(9:1~5)

- ①パウロの悲しみ(1~3節)
- ②イスラエル人の7つの特権(4~5節)
  - \*子とされる
  - \*栄光
  - \*契約(複数形)
  - \*律法を与えられること
  - \*礼拝
  - \*約束(複数形)
  - \*先祖たち(族長たち)

#### (2) こういう特権が与えられているのに、イスラエルはメシアを拒否した。

- ①神の約束、計画は、挫折したのではないか。
- ②これは、私たちにとっても重大問題である(100%でなければ信頼できない)。
- ③この疑問に、パウロは答える。

### 3. アウトライン

- (1)2つのイスラエル(6節)
- (2)アブラハムの2人の息子(7~9節)
- (3)イサクの2人の息子(10~13節)

### 4. メッセージのゴール(適用)

- (1)現代の教会について
- (2)救いについて

(3) 使命について

このメッセージは、2つのイスラエルについて学ぶものである。

I. 2つのイスラエル (6節)

1. 6節 a

「しかし、神のみことばが無効になったわけではありません」

(1) 「しかし」

- ① 1~5節で述べたことへの疑問
- ② では、神のことばは効力を失ったのか。
- ③ パウロはそれに答える。

(2) 「神のみことばが無効になったわけではありません」

- ① 「無効になる」は、ギリシア語で「エクピプトウ」である。
- ② コースから外れる。

(3) 聖書の用例 (非常に絵画的な言葉で、意味の広がりを感じる)

① ヤコ 1:11 (草花が枯れる)

「太陽が熱風を伴って上って来ると、草を枯らしてしまいます。すると、その花は落ち、美しい姿は滅びます。同じように、富んでいる人も、働きの最中に消えて行くのです」

② 使 12:7 (鎖が外れる)

「すると突然、主の御使いが現れ、光が牢を照らした。御使いはペテロのわき腹をたたいて彼を起こし、『急いで立ち上がりなさい』と言った。すると、鎖が彼の手から落ちた」

③ ガラ 5:4 (恵みから落ちる)

「律法によって義と認められようとしているあなたがたは、キリストから離れ、恵みから落ちてしまったのです」

④ 使 27:26 (打ち上げられる。漂流する)

「私たちは必ず、どこかの島に打ち上げられます」

## 2. 6節b

「なぜなら、イスラエルから出る者がみな、イスラエルなのではなく、」

### (1) 「なぜなら」

①神のことは今も有効であることの理由を、これから説明しようとしている。

### (2) 「イスラエルから出る者がみな、イスラエルなのではなく、」

①ここからパウロは、神の選びについて説明する。

②その説明が、11章の終わりまで続く。

③ロマ書9~11章が難解に感じる理由

\*パウロの主張が論理的に理解し難いわけではない。

\*「神の選び」という教理に反発を感じるのである。

### (3) 2つのイスラエル

①「イスラエルから出る者」とは、民族的イスラエル。

\*彼らは、アブラハム、イサク、ヤコブの子孫である。

②「イスラエルなのではなく」とは、霊的イスラエル。

③よくある誤解

\*イスラエルと教会の区別ではない。

\*イスラエルと異邦人の区別でもない。

④民族としてのイスラエルの中に、少数の信仰のあるイスラエルが存在する。

\*肉体的にイスラエル人であれば受ける祝福もある。

\*しかし、霊的祝福(救い)は、信仰のあるイスラエル人にものみ与えられる。

⑤信仰のあるイスラエルの呼称

\*霊的イスラエル

\*神のイスラエル(ガラ6:16)

\*レムナント(残りの者)

\*まことのイスラエル人(ヨハ1:47)

## II. アブラハムの2人の息子(7~9節)

### 1. 7~8節

「アブラハムから出たからといって、すべてが子どもなのではなく、『イサクから出る者があなたの子孫と呼ばれる』のだからです。すなわち、肉の子どもがそのまま神の子どもではなく、約束の子どもが子孫とみなされるのです」

(1) 創21:12の引用

「すると、神はアブラハムに仰せられた。『その少年と、あなたのはしためのことで、悩んではならない。サラがあなたに言うことはみな、言うとおりに聞き入れなさい。イサクから出る者が、あなたの子孫と呼ばれるからだ』

- ①アブラハムの子孫と言う呼び名は、イサクから出る者に与えられる。
- ②その背後には、神の選びがある。

(2) アブラハム契約を継承するのは、ひとりである。

- ①肉の子どもではない。
- ②約束の子どもである。

2. 9節

「約束のみことばはこうです。『私は来年の今ごろ来ます。そして、サラは男の子を産みま

す』

(1) 創18:10の引用

- ①イサクは、アブラハムの肉の子であると同時に、約束の子です。

(2) イシュマエルとイサクは、同じ父親から生まれた異母兄弟である。

- ①神は、女奴隷の息子ではなく、正妻の息子を選ばれたのか、という疑問がわく。
- ②もしそうなら、神の選びは血筋によって影響されたことになる。
- ③その誤解を解くために、パウロは次の例を取り上げる。

### Ⅲ. イサクの2人の息子(10~13節)

1. 10節

「このことだけでなく、私たちの父イサクひとりによってみごもったリベカのこともあります」

「それだけではなく、リベカが、一人の人、つまりわたしたちの父イサクによって身ごもった場合にも、同じことが言えます」(新共同訳)

(1) 同じ父と、同じ母から誕生した2人の息子の場合

- ①エサウとヤコブ
- ②しかも彼らは、双子であった。
- ③神の選びが、より鮮明に証明される。

## 2. 11~12節

「その子どもたちは、まだ生まれてもおらず、善も悪も行わないうちに、神の選びの計画の確かさが、行いにはよらず、召してくださる方によるようにと、『兄は弟に仕える』と彼女に告げられたのです」

### (1) 創25:23からの引用

①アブラハム契約の祝福は、イサク、ヤコブと継承される。

### (2) 神の計画の確実性

①誕生前から、行いによらずに、神の選びがあった。

## 3. 13節

『わたしはヤコブを愛し、エサウを憎んだ』と書いてあるとおりです」

### (1) マラ1:2~3の引用

①「愛し」、「憎む」を誤解してはならない。

(例話) 求道中に通った教会でのメッセージ。エサウのような人は神に憎まれる。

②「憎む」とは、感情ではなく、理性的判断である。選びからもれたということ。

③メシア的約束の継承者は、ひとりの息子である。

④神は主権によって、弟のヤコブを選ばれた。

### (2) 聖書の歴史を振り返ると、神の選びによって少数の者が選ばれたことが分かる。

①イシュマエルではなく、イサクが選ばれた。

②エサウではなく、ヤコブが選ばれた。

③肉のイスラエルの中から、霊的イスラエルが選ばれた。

④神の約束が無効になったわけではない。

## 結論

### 1. 現代の教会について

#### (1) 普遍的教会と地域教会の違い

①普遍的教会とは、ペンテコステから携挙までの間に救われる人の総体である。

②地域教会とは、各地に存在する信者の集合体である。

#### (2) 地域教会の問題点

①イスラエル全体の中に、霊的イスラエルが存在していた。

②地域教会には、真の信仰者とそうでない者が混在している。

- ③ちょうど、イスラエル全体と霊的イスラエルの関係のようである。
- ④教会籍を持っていることは、救いの保証ではない。

(3) 私たちへのチャレンジ

- ①信仰のオーナーシップを回復する。
- ②主との生きた関係を保持し続けているかどうか、問題である。

2. 救いについて

(1) アブラハム、イサク、ヤコブの子孫というだけでは救われない。

- ①クリスチャンホームに生まれ、育ったというだけでは救われない。

(2) 行いによっては義とされない。

- ①誕生の前から、神の選びがある。

(3) ヨハ1:12~13

「しかし、この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった。この人々は、血によってではなく、肉の欲求や人の意欲によってでもなく、ただ、神によって生まれたのである」

- ①血によってではない。
- ②肉の欲求や人の意欲によってでもない。
- ③神によって生まれた。
- ④その名を信じるとは、神の選びに対して霊的に応答することである。

3. 使命について

(1) 選びには、使命が伴っている。

- ①イスラエルはそれを理解しなかった。

(2) 選びには、苦難が伴う。

- ①預言者たちの例
- ②パウロの例
- ③何よりも、メシアの例
- ④そして、私たちも。